

第2回周南市まちづくり総合計画審議会 会 議 録

日 時：平成26年6月17日（火）

場 所：徳山保健センター 健診ホール

【会 議 次 第】

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 まちづくり総合計画（素案）の諮問
- 4 議 事
(1)まちづくり総合計画（素案）の審議について
(2)部会の設置について
- 5 その他
- 6 閉 会

《 事前配付資料 》

- ・ 第2次周南市まちづくり総合計画基本構想（素案）

《 当日配付資料 》

- ・ 【資料1】周南市まちづくり総合計画審議会 部会構成
- ・ 【資料2】まちづくり総合計画審議会 審議スケジュール
- ・ 〔参考様式〕基本構想（素案）に関する意見や提案等
- ・ まちづくり総合計画審議会への諮問書（写）
- ・ 第2回周南市まちづくり総合計画審議会 座席表

第2回周南市まちづくり総合計画審議会 会議録

日 時 平成26年6月17日(火) 14時30分～15時50分

場 所 徳山保健センター 健診ホール

出席者 ・委員 34名(敬称略・名簿順)

原田浩樹、西岡志保子、岡成靖子、重高健吾、大山政男、佐野千鶴子、山田幸子、松田富雄、山田 智、藤村和義、向谷静波、竹島 弘、梅田順子、原田邦昭、佐藤英樹、近間純栄、山本 淳、早川沙織、齊藤由里恵、目山直樹、有馬俊雅、宮崎 進、酒井隆行、安永 守、石川光生、片山寿世、徳原陽子、廣澤和己、福江宣子、藤井あゆみ、升崎美彦、山崎勝幸、吉岡 治、渡辺明彦

・木村健一郎周南市長

・事務局 6名

住田企画総務部長、原田政策企画課長、高木課長補佐、有間係長、中村主査、山本主任

資 料 ・会議次第のとおり

会 議 議 事 録

1 開 会

2 市長あいさつ

本日、ご審議をお願いします「まちづくり総合計画」は、平成27年度からの10年間を計画期間とする本市のまちづくりの最上位計画です。

将来の都市像やまちづくりの方向性を明らかにし、その実現に向けて、計画的な行政運営を進めていくための総合的な指針であり、まちづくりの目標を市民の皆さまとともに「オール周南」で共有していくための大切な計画です。

各分野でご活躍されている委員の方から、幅広くご意見、ご提言をいただき、周南市に相応しい、よりよい計画にしていきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

私たち一人ひとりが、このまちに住んで良かったと思える「ふるさと周南」を目指し、私も先頭に立ち、職員一同、全力で取り組んで参りますので、委員の皆さまのお力添えをお願いします。

3 まちづくり総合計画(素案)の諮問

(諮問書を朗読、手渡し)

4 事務局職員自己紹介

5 議事

(1) まちづくり総合計画（素案）の審議について

[事務局]

「第2次周南市まちづくり総合計画基本構想（素案）」に沿って説明

[会長]

総合計画の基本構想と基本計画の部分について諮問を受けましたので、最後に併せて答申することになります。

本日は、基本構想について、皆さまからご質問やご意見とそれに対する事務局からの説明をお願いしたいと思います。

時間的な制約もあるので、次の審議会の時に、質問したことが、ある程度返ってくるということを前提に、検討を進めていきたいと思います。

全体についてのご質問やご意見を伺うと雑ばくなもとなりますので、まず、「周南市の未来像」と「計画の性格と名称等」についてご質問やご意見はありませんか。

質問が無いようでしたら、私から質問します。

2ページの「新しい公共」の概念図が市民の方に分かりにくいのではないかと思います。

従来の「古い公共」についての説明がないと、新しい概念としての「新しい公共」が分かりにくいと思います。事務局、そのあたりについてはいかがですか。

[事務局]

従来の「新しい公共」とは、行政と市民が一緒になって何かをやっていこうという「市民協働」の考え方に基づいていました。市が主体的に関与し、補助金などにより市民の方を応援するというかたちが多かった。

しかし、これからの「新しい公共」は、たとえ行政が関与しなくても、市民の方が自主的・主体的に公共サービスを担っていく。自らが問題を提起して、自らが解決してく。それを「自主的・主体的な新しい公共」と定義しています。分かりにくい部分もあるので事例を示していきたいと思います。

[委員]

2ページの概念図が分かりにくいので、説明を加えていただくことはもちろんですが、概念図自体が何を示しているのか分かりやすくしてください。まちづくりの裾野が広がったことは何となく分かりますが、縦軸に積み上がっているものがわかりません。

[委員]

2ページの最終行、「安心自立都市 周南」という意味がよく分かりません。むしろ、安心で共創共生の周南市」と書いた方が分かりやすいと思います。

[会長]

委員から、「自立」について説明をしてほしいという意見が一つ。それと「安心自立」

より「共創共生」の方がマッチするのではないかという意見ですが、事務局の考えをご説明ください。

[事務局]

1 ページにもありますように、公共サービスのあり方を「合併後のまちづくり」から「自立したまちづくり」へ転換する必要があると認識しています。その自立とは、「財政的に安定している」。もう一つは「自己決定・自己責任によるまちづくりを進める」ということがあります。その中には、市民の皆さまと行政が役割分担し、まちづくりに取り組む中で、市民の皆さまも自らの役割を果たすという自立が含まれています。

このように色々な意味を含めて「自立したまちづくり」という言葉を使っています。

[会長]

なぜ、「自立したまちづくり」を進めなければならないのかというバックデータが少なすぎるから、市民の皆さまも危機感を感じられないのだと思います。

前回の審議会でも、地域別のアンケート調査結果を出せないかとリクエストしましたが、要は、「このままでは、中山間地域で生活がもう成り立たないから、自立するためにはどうしたらいいのか」、また、「中心市街地が、このまま活性化しなければ、安心・安全に暮らせるというせつかくある資源が十分に生かされない」という説明がほしい。

自立という言葉の意味は理解しているが、自立の必要性を皆さまに認識していただくためには必要なことだと思います。

委員の方は、事務局と同じレベルで、資料を読み込んでいるわけではないので、委員の方や市民の方が見た時に、納得いただける資料の見せ方を工夫してください。

[委員]

通常、現状の課題などが正確に共有された上で、「何をしますか」ということになるが、そのあたりが曖昧でぼやかされていると感じました。行政サイドは、市民の皆さまにお任せして、後ろ側に引いていこうというイメージと受け取れるが、意図があってそうしているのか確認したい。もう少し現状を伝えた上で、市民の皆さまと危機感を共有できるレベルに達した未来像を打ち出すべきだと思います。

[事務局]

貴重なご意見ありがとうございます。柔らかい文章で作っていますので、表裏的に危機感が伝わりにくいということは認識していますが、実際は、大変厳しい未来が想定できません。合併特例債などの支援措置がなくなり、通算で27億円の財源が減り、しかも、人口が減少していく中で、経済活動を含めた色々な活動が縮小していくことが想定されます。そうした将来を見据え、市民と行政が一つのベクトルに向かっていくという思想の中で、この基本構想を作っています。

議論が分かれるところですが、そうした厳しい状況を前面に出していく方法もあると思いますので、ご意見は参考にさせていただきたいと思います。

[会長]

こういうものは、暗く危機感をもって書くと明るくない。だから、今の書き方は、明るい未来を見据えているので悪いことではありません。ただし、「自立しなければならない」というには、提示された資料が雑ばくであると印象を持っています。

今後、基本構想と基本計画を、同時に、具体案を立てて進めていきますので、各部会の中でもそれぞれの視点から議論していただき、最終的には、全体会にフィードバックしていただくようになると思います。

他にご意見がないようなら「IV社会の潮流と基本認識」、「V将来人口」、「VIまちづくりの方向」についてご意見を伺いたいと思います。

[会長]

最初に少し補足を申し上げますと、基本認識の10項目について、異論はありませんが、将来人口については、こうした行政計画の中で人口減少を明確に打ち出すというスタンスは大きな変化だと理解しています。

10年後の将来人口を見据えているのは、確からしさがあるのは分かりますが、20年、30年後については、誤差を含んだ上で推計を繰り返しているもので、社会状況や産業構造の変化、若者の流入により状況は変わってきます。今の傾向が10年間続けば、こういう予想になってくるということです。

また、資料に対する意見として、13ページの「地域別将来人口・高齢化率の推計」がありますが、須金や勝間といった各地域が中山間地域に含まれるのか、都市周辺地域に含まれるのかが分かるようにしていただきたいと思います。

[委員]

14ページの目指すまちの姿「人・自然・産業が織りなす未来につなげる安心自立都市周南」の「未来につなげる」というフレーズは、文脈的に不要だと思います。

[会長]

こうしたキャッチフレーズの部分など、皆さまのご意見を踏まえて見直しを行い、最終的に答申というかたちで返していくことになると思いますので、事務局で少し考えてみてください。

[委員]

4ページのアンケート調査結果の「本市の住みよさ・今後の居留意向」について、年齢別の調査結果は出ませんか。

[事務局]

前回の審議会でお配りした市民アンケート調査集計結果の8ページに年齢別の調査結果が出ています。「本市の住みよさ・今後の居留意向」については、年代を問わず同じような傾向が出ています。

[委員]

1ページの19行目と9ページの11行目に「新しい公共」についての説明があります

が、1 ページ目は「自主的・主体的」、9 ページ目は「自主的・自立的」となっていますので、表現を統一した方がよいと思います。

14 ページ6 行目は、「だれもが」となっており、14 ページの31 行目は「誰もが」となっていますので、確認をお願いします。

[事務局]

表記を合わせたいと思います。

[委員]

「VI まちづくりの方向」について10 項目ありますが、それぞれの説明について誰が見ても分かりやすいように、もっと簡潔な記載ができませんか。

[事務局]

全体を網羅するような書き方になっていますが、これについてはもう少し検討させていただきたいと思います。

[会長]

今回、基本構想が出てきましたが、まだ基本計画は出ていません。おそらく「VI まちづくりの方向」の中に出てくる10 項目が、基本計画の見出しの項目になってきて、その中に、具体的な中身を書いていった時に、これらはエッセンスになってくると思います。

基本計画が、まだ見えていない状態なので分かりませんが、事務局いかがでしょう。

[事務局]

おっしゃる通りです。今回は基本計画ということで、それぞれが表裏一体の項目となっており、分野別計画を出来るだけ網羅しておきたいという思いで書いていますので、こういった文章になっています。

[会長]

今日の会議の中で、ご意見やご質問を全部処理していくよりは、一端持ち帰り、質問票を事務局に提出いただくと整理がしやすいのではないかと思います。

どなたの質問かは必要ないので、分野別に出たご意見やご質問を整理して、皆さまへ共有していただけたらと思います。

[事務局]

補足説明ですが、1 ページ目に「∞(無限)の市民力と最大限の行政力を結集し周南の価値を高めるまちづくり」とありますが、これは、今後の都市経営を含む基本的な理念として考えています。この中にある「周南の価値を高める」とは何なのかというご意見もあると思います。「価値を高める」とは、例えば、市民一人ひとりが自発的に自宅の前を清掃するとまちの環境美化にもつながり、住みよさが増し、「まちの価値」が高まると思います。そうすることにより、市外の人も含めて、周南市に住んでみたいと思われる、選ばれるまちになると思います。そういうことも含めて、基本理念について考えていただけたらと思います。

[会長]

「まちの価値を高める」ことで、市民や企業から選択されるまちになろうという理念ですから、それを踏まえてご検討いただきたいと思います。

次に、議題2の「部会の設置について」説明をお願いします。

(2) 部会の設置について

[事務局]

「【資料1】周南市まちづくり総合計画審議会 部会構成」に沿って説明

[会長]

確認ですが、次回審議会と各部会は同じ日に開催されるということによろしいですか。

[事務局]

そのように考えています。

[会長]

部会構成について、希望された方もおられると思いますが、各部会間の委員の異動はまだ可能ですか。

[事務局]

希望に合わせて調整します。

6 その他

[事務局]

本日お配りした「基本構想(素案)に関する意見や提案等」については、7月1日までにいただければと思います。また、メールアドレスを登録いただいている方には、メールでお送りしたいと思いますので、適宜、ご利用ください。

[会長]

以上で、次第に基づく全ての日程を終了いたしました。ありがとうございました。

7 閉会

[事務局]

ありがとうございました。最後に、閉会にあたり企画総務部長の住田がごあいさつを申し上げます。

[企画総務部長]

皆さま、どうもありがとうございました。有意義な会議になったと思います。

基本的に総合計画は行政だけが作るものではございません。10年後のまちがどうあるべきか、しっかり議論いただきまして、いい計画にさせていただけたらと思います。

行政もしっかりとカバーしていきます。

お願い一つあります。基本構想(素案)の中で、赤字で示した3つのキーワードがあり

ますが、これは大変重要なキーワードですので、どんどんご意見をいただけたらと思います。

本日はどうもありがとうございました。

[事務局]

以上をもちまして、「第2回周南市まちづくり総合計画審議会」を終了いたします。本日はありがとうございました。